

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370068

研究課題名(和文) 東日本大震災後の地域コミュニティの再編と宗教の公益性に関する調査研究

研究課題名(英文) Survey research on the change of local communities and public interest of religion after the Great East Japan Earthquake

研究代表者

弓山 達也 (Yumiyama, Tatsuya)

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・教授

研究者番号：40311998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は主にいわき市における宗教とコミュニティをテーマに、宗教団体、民俗行事、市民イベントの調査を重ねてきた。その結果、以下の3つの成果が得られた。

(1)被災者支援が後退していくなかで、宗教団体や宗教者による支援は継続され、そのことが宗教の有する公益性や公共性を高めていることが判った。(2)いわき市震災モニュメントの悉皆調査を実施し、23カ所のモニュメントを確認し、16カ所については所在地、形状、意味、建設経緯などを整理した。(3)市民の街づくり会議等に出席するとともにボランティアを行いながら調査を行う「関与型調査」を模索し、学会と公開シンポジウムで、その成果を問うことができた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we have investigated religious denominations, religious person and disaster recovery events after the Great East Japan Earthquake. The major findings of the study are summarized as follows. (1)We understood how religious-based ongoing support in the disaster-struck areas impacts on the discussion about public interest of religion. (2)We took a inventory survey of earthquake monuments in Iwaki and compiled a list of them. (3)We organized the involvement research conducted with citizens and presented the results at a conference of JARS and an open symposium given by us.

研究分野：宗教学

キーワード：東日本大震災 コミュニティ いわき市 震災モニュメント 宗教 公益性 関与型調査

### 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災から2年半たった2013年10月(本研究申請時)、避難者数は約28万6千人で(9/25復興庁)、福島県は避難者率4.7%と被災三県で最も高く、その中でもいわき市は仮設住宅数36地区3,512戸(4/1国土交通省住宅局)と受入市区町村の中で最多であった。そして今も地震と津波と原発事故に加え、短期間に人口移動という意味で、いわき市をはじめ福島県下の地域コミュニティは危機に直面している。また現地は緊急/応急対策期から復興対策期へと移行し、この時期特有の諸問題(ストレス、喪失感、孤立化)が顕在化している。

その一方で、被災地では神社の再建、慰霊・供養行事や民俗行事の再開といった宗教文化がシンボルとなって地域コミュニティの復興に関わり、また宗教者や宗教団体の支援活動も続けられ、その一部は社会福祉協議会や市町村などの行政や仮設住宅自治会との協働も見られ、公的な領域での宗教の可能性を強く印象づけている。特に上記の諸問題の顕在化の中でも精神的(こころ)や社会的紐帯(つながり)に宗教は大きく関わり、その存在意義が注目されている。

本研究は震災復興期における社会変動下のいわき市の宗教団体をほぼ網羅した調査を行い、近隣市町村から/への人口移動に鑑み、いわき市周辺、また地域ごとの類型化や比較を行うために被災三県に適宜調査地を拡大しつつ、地域コミュニティにおける宗教の社会的役割や公益性を解明することを目的とする。

### 2. 研究の目的

さらに本研究の目的を具体的に述べるならば、本研究は、いわき市を中心に被災三県を調査地とし、東日本大震災発生以降の同地域の宗教団体や宗教文化と地域コミュニティとの関わりを検討し、

(1)儀礼・祭礼・芸能等の宗教文化や宗教団体は震災によっていかなる影響を被り、宗教文化を色濃く残した地域コミュニティの復興の過程でどのように変容しているか、

(2)宗教者や宗教団体は支援活動をはじめ、どのように地域コミュニティ復興に関与しているか、

(3)これら(1)(2)の解明を通して、公共の領域で宗教の公益性を明確にし、

(4)また私たち研究者も地域コミュニティ復興の現場に能動的に関わることにより、宗教研究の応用性を射程に入れて研究を推進していくものである。

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の3つの調査研究を経て目的達成がはかれる。

(1)いわき市を中心に宗教者・宗教団体の対応・取り組みについて情報を集積すると共に、特に地域コミュニティとの関わりについて

継続調査を実施する。

(2)上記(1)と並行して、公共の領域で際立った/典型的な活動をなす宗教団体の活動や宗教行事・イベントを調査し、(1)の成果とあわせて比較・類型化を試みる。

(3)同時にかかる成果を学会報告、市民向けシンポジウム、行政関係者へのフィードバックとして公開し、情報交換と次なる調査の更新を実施する。

### 4. 研究成果

#### (1) 宗教とコミュニティに関する調査

##### 定点観測

本研究は2011年夏から継続的に行ってきた調査(いわき市における宗教とコミュニティ)に上積みする形で調査を実施した。特に市内の大國魂神社、グローバル・ミッション・チャーチ、創価学会には定期的に訪問。また3月11日前後の追弔行事については平、薄磯、久之浜で行事に参加してきた。

##### 被災者サポートに関する調査

本研究では宗教団体・宗教者の被災者サポートの実態把握に力を入れてきた。泉グレイスチャペルやカトリックいわき教会といったいわき市内の宗教団体の他、2015年2月より釜石市の仮設住宅等で被災者への継続的支援を行っているキリスト教3団体を対象に聞き取り調査を実施し、15年7月からは参与観察を続けている。あわせてカトリック仙台教区(特に仙台・白河・須賀川・大舟渡)の教会再建と支援についても調査を開始している。

##### 調査地の拡大

以上のようにいわき市を中心に開始した本研究であるが、2016年度末までに、福島県須賀川市・白河市・川内村・浪江町、宮城県仙台市・南三陸町、岩手県釜石市、大船渡市、山田町、大槌町に調査地を拡大している。

#### (2)いわき市震災モニュメントの悉皆調査

本研究では震災後の宗教とコミュニティの関係を問う上で際立った現象の悉皆的に調査することを目指し、阪神淡路大震災後の同様の研究を踏まえ、いわき市内約200カ所に郵送アンケートを実施し、震災モニュメントに関する情報を集約した。その結果、23カ所のモニュメントの存在を把握し、全調査を行った(2014年9月、15年3月・7月)。このうち16カ所については所在地、素材・形状、意味、建設時期、建設主体と協力者、発案から建設まで、碑文を整理し、小林他(2015)・君島他編(2015)にまとめた。

#### (3)市民や行政との連携ならびに情報発信

本研究の特徴は震災復興に関わる市民と連携・協働して研究を進めていく点にある。2015年3月に仙台で開催された国連防災世界会議に出席し、同席した被災寺院の見学ならび聞き取り調査を開始した。2015年夏からはいわき市平・小名浜・豊間で震災後地域活動

を展開している市民団体3カ所で街づくり会議に出席。平における会議には出席を続けている。また2016年5月には小名浜での市民開催のイベントにボランティアとして参画しつつ調査を行う「関与型調査」を開始し、本方法論の洗練とともに市民イベントの宗教性について研究を続けている。

以上の中間総括として2016年9月には日本宗教学会でテーマセッションを組み、また17年3月に公開シンポジウム「東日本大震災後の新しい生き方とコミュニティ、そして宗教」を開催した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

星野壮、カトリック教会による在日ブラジル人信徒への対応 『カトリック新聞』の記事を中心に、宗教と社会貢献、査読有、Vol.6、No.2、2016、pp.23-50、[http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/bitstream/11094/57817/1/rsc06\\_02\\_023.pdf](http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/bitstream/11094/57817/1/rsc06_02_023.pdf)

村上興匡、高齢化社会における健康・死生観と宗教、日本臨床内科医会誌、査読無、Vol.31、No.3、2016、p.379

齋藤知明、地域に生きる/地域を創る教育を考える 震災被災地における大学間ネットワークの取り組みから、いのちの教育、査読有、Vol.1、No.1、2016、pp.33-40

星野英紀、震災からの復興と宗教文化の行方、現代宗教2016、査読有、2016、185-205 <http://www.iisr.jp/journal/journal2016/P185-P205.pdf>

弓山達也、「命てんでんこ」考 いのちの多面的・多層的理解に向けて、いのちの教育、査読有、Vol.1、No.1、2016、51-56

齋藤知明、「いのちの教育」は小中学校でどのように実践されているか 研究指定校の取り組みから、宗教学年報、査読有、Vol.30、2015、pp.27-51

星野英紀、「忘れられた町」の「四日間」とその後 全町民避難の浪江町で起こったこと、宗教学年報、査読有、Vol.30、2015、1-25

小林惇道、君島彩子、弓山達也、いわき市における震災モニタリングの現在と今後、宗教学年報、査読有、Vol.30、2015、93-105

[学会発表](計8件)

弓山達也、民俗芸能から見える地域の課題、日本宗教学会第75回学術大会、2016年9月11日、早稲田大学(東京都・新宿区)

齋藤知明、仮設・復興住宅のコミュニティ再(々)構築における宗教の関与、日本宗教学会第75回学術大会、2016年9月11日、早稲田大学(東京都・新宿区)

星野壮、被災地から見る外国人と宗教 カトリック教会を中心として、日本宗教学会第75回学術大会、2016年9月11日、早稲田大学(東京都・新宿区)

齋藤知明、三木英『宗教と震災 阪神・淡路、東日本のそれから』書評報告、2015年度第2回「宗教と社会貢献」研究会、2015年12月20日、関西学院大学(大阪府・大阪市北区)

齋藤知明、東日本大震災後のコミュニティ再構築における宗教者の関与、平成27年度浄土宗総合学術大会、2015年9月16日、大正大学(東京都・豊島区)

星野壮、在日ブラジル人と宗教 キリスト教を中心に、駒澤宗教学研究会第175回例会、2015年7月3日、駒澤大学(東京都・世田谷区)

弓山達也、世代間交流と被災地支援が産み出すスピリチュアリティの教育、日本宗教学会第73回学術大会、2014年9月14日、同志社大学(京都府・京都市)

黒崎浩行、災害支援と記憶継承における情報ネットワークの役割と宗教、日本宗教学会第73回学術大会、2014年9月13日、同志社大学(京都府・京都市)

[図書](計6件)

寺田喜朗、ハーベスト社、寺田喜朗他編『近現代日本の宗教変動 実証的宗教社会学の視座から』、2016、410(165-216)

黒崎浩行、春秋社、宗教者災害支援連絡会編『災害支援ハンドブック 宗教者の実践とその協働』、2016、272(241-247)

黒崎浩行、人文書院、小熊英二・赤坂憲雄編著『ゴーストタウンから死者は出ない 東北復興の経路依存』、2015、313(237-256)

齋藤知明、大正大学鴨台プロジェクトセンター、齋藤知明編『子どもたちとともに未来を考えた 東北再生「私大ネット36」2015夏 南三陸スタディツアーAct3「子どもたちとともに未来を考える」報告書』、2015、100

弓山達也、弓山達也研究室、被災地で「いのち」について考える、2015、59

弓山達也、金子書房、近藤卓編『基本的自尊感情を育てるいのちの教育』、2014、248 (94-101)

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

取得状況 (計0件)

〔その他〕

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

弓山 達也 (Yumiyama, Tatsuya)

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育  
院・教授

研究者番号：40311998

### (2) 研究分担者

星野 英紀 (Hoshino, Eiki)

大正大学・文学部・名誉教授

研究者番号：00054669

村上 興匡 (Murakami, Kokyo)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：40292742

寺田 喜朗 (Terada, Yoshiro)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：40459839

佐々木 裕子 (Sasaki, Yuko)

白百合女子大学・基礎教育センター・教授

研究者番号：60286888

黒崎 浩行 (Kurosaki, Hiroyuki)

國學院大學・神道文化学部・教授

研究者番号：70296789

齋藤 知明 (Saito, Tomoaki)

大正大学・心理社会学部・専任講師

研究者番号：80646224

星野 壮 (Hoshino, So)

大正大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：60725381

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

なし